



# PCC-3000

## オペレーションマニュアル

PCC (Personal Computer Control)-3000 は、FT DX 3000 シリーズを  
Personal Computer 上でコントロールするソフトウェアです。

# 目次

最初にお読みください .....	3	RX CLAR ボタン .....	15
使用上のご注意 .....	3	TX CLAR ボタン .....	15
PCC-3000 を使用するために必要な環境 .....	3	CLEAR ボタン .....	15
接続方法 .....	4	CLAR ツマミ .....	15
USB ケーブルで接続する場合 .....	4	アンテナ端子の切り換え .....	15
RS-232C (シリアル) ケーブルで接続する場合 .....	4	IPO (Intercept Point Optimization) の設定 .....	16
PCC-3000 ソフトウェアのインストール .....	5	ATT (Attenuator) の設定 .....	16
PCC-3000 ソフトウェアのアンインストール .....	5	ルーフイングフィルターの設定 .....	16
パソコンの通信ポート COM 端子番号の設定 .....	5	ノイズブランカーの設定 .....	17
通信速度“Baud rate”の設定 .....	6	AGC の設定 .....	17
画面の説明 .....	7	μ-TUNE の設定 .....	18
操作方法 .....	8	IF SHIFT の設定 .....	19
PCC-3000 コントローラ画面 .....	8	WIDTH の設定 .....	19
PCC-3000 コントローラ画面の表示 .....	8	ナロー (NAR) の設定 .....	20
PCC-3000 コントローラ画面の終了 .....	8	DNR (デジタルノイズリダクション) の設定 .....	20
バージョンの確認 .....	8	DNF (AUTO NOTCH) の設定 .....	20
PCC-3000 コントローラの回線接続 .....	9	NOTCH の設定 .....	21
電源の ON/OFF .....	9	CONTOUR/APF の設定 .....	22
音量の調整 .....	9	CONTOUR .....	22
RF GAIN の設定 .....	10	APF (Audio Peak Filter) .....	23
スケルチの調整 .....	10	MIC GAIN の設定 .....	24
Main VFO-A の周波数設定 .....	11	MOX 操作 .....	24
MAIN ダイアルツマミによる周波数設定 .....	11	VOX の設定 .....	25
周波数ダイレクト操作による周波数設定 .....	11	スピーチプロセッサの設定 .....	25
運用バンドの設定 .....	11	SSB モード以外の送信出力調整 .....	26
テンキー入力による周波数設定 .....	11	オートアンテナチューナーの設定 .....	26
1MHz/100kHz アップダウンによる周波数設定 .....	12	ボイスメモリー機能 .....	27
VFO-B の周波数設定 .....	12	録音操作 .....	27
CLAR/VFO-B ツマミによる周波数設定 .....	12	録音内容の確認 (再生) 操作 .....	27
周波数ダイレクト操作による周波数設定 .....	13	送信操作 .....	27
運用バンドの設定 .....	13	プレイバック機能 .....	28
テンキー入力による周波数設定 .....	13	録音操作 .....	28
[MAIN ダイアル] ツマミ / [CLAR/VFO-B] ツマミのロック設定 .....	14	再生操作 .....	28
運用モード選択 .....	14	モニター機能の設定 .....	28
クラリファイアの設定 .....	15	3ステージパラメトリックマイクイコライザー機能の調整 .....	29

Prmtrc/P-Prmtrc ポップアップウインドウ .....	31
エレクトロニックキーヤー設定.....	32
コンテストメモリーキーヤー設定 .....	33
TEXT メモリーの書き込み .....	33
TEXT メモリーの内容を確認 .....	33
TEXT メモリーの送付 .....	34
レピータ運用 (FM モード) .....	34
ローテーターのコントロール .....	35
QMB メモリー .....	35
各種ボタンとスイッチの操作.....	36
機能表示ディスプレイの[METER] ボタン .....	36
機能表示ディスプレイの[ZIN/SPOT] ボタン ....	36
[SPLIT] ボタン .....	36
[TXW] ボタン.....	36
[(VFO-A)RX] インジケーターボタン .....	37
[(VFO-A)TX] インジケーターボタン.....	37
[(VFO-B)RX] インジケーターボタン .....	37
[(VFO-B)TX] インジケーターボタン.....	37
メインダイヤルの[FAST] ボタン .....	37
[A→B]ボタン .....	38
[A←→B]ボタン .....	38
[V/M] ボタン .....	38
[M→A] ボタン .....	38
[A→M] ボタン .....	38
[MCH/GRP] ボタン .....	39
CLAR/VFO-B ダイヤルの[FAST] ボタン .....	39

メニューモードの設定.....	40
CAT コマンドによる設定.....	41
ファンクションキーの使い方 .....	41
キーボードショートカットエディタ .....	42
キーボードショートカットエディタの使い方 .....	42
キーボードショートカットエディタの起動 .....	42
“COM Port”、“Baud rate”の設定.....	43
ファンクションキーに CAT コマンドを設定.....	43
CAT コマンドに Tag (タグ)を入力して表示 .....	44
ファンクションキーをクリックして CAT コマンドを送出 .....	44
.....	44
コマンドをコピーして貼り付ける .....	45
ファンクションキーに設定した CAT コマンドを保存 .....	45
.....	45
保存したデータを読み出す.....	45
キーボードショートカットエディタの終了 .....	46
バージョンの確認 .....	46

この「PCC-3000 オペレーションマニュアル」はおもに PCC-3000 の操作方法を記載しておりますので、機能等の詳細は「FT DX 3000 シリーズのオペレーションマニュアル」を参照してください。

# 最初にお読みください

---

---

## 使用上のご注意

---

---

このソフトウェアおよびマニュアルの著作権は、八重洲無線株式会社にあります。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製または譲渡することは禁じられています。

八重洲無線株式会社は、このソフトウェアおよびマニュアルの内容に関し、特許権、特許を受ける権利、著作権、商標権、実用新案権、意匠権またはその他の権利を有する場合があります。八重洲無線株式会社は、これらの権利をお客様に譲渡または許諾するものではありません。

このソフトウェアおよびハードウェアの仕様、機能、内容、およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。

八重洲無線株式会社は、八重洲無線株式会社の登録商標です。また、記載されている会社名は、各社の商標または登録商標です。

警告:このプログラムは、著作権法および国際条約によって保護されています。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

---

---

## PCC-3000 を使用するために必要な環境

---

---

- USB 端子または RS-232C 端子のあるパソコン
- 対応するオペレーティング・システム
  - Microsoft® Windows® XP (Service Pack 3 以降)
  - Microsoft® Windows Vista® 32bit および 64bit (Service Pack 1 以降)
  - Microsoft® Windows® 7 32bit および 64bit
- ソフトウェアインストール用に 30MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- それぞれのオペレーティング・システムで推奨されている容量以上のメモリー
- 1024 x 768 の画面解像度 (XGA)、256 色以上をサポートするビデオカードとディスプレイを推奨

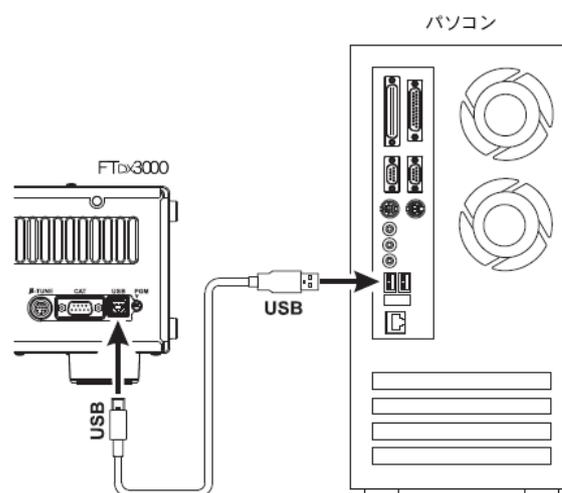
## 接続方法

### USB ケーブルで接続する場合

【ご注意】仮想COM ポートドライバーのインストールが完了するまでは、無線機とパソコンとをUSBケーブルで接続しないで下さい。インストールを行わないで無線機とパソコンをUSBケーブルで接続した場合、誤ったドライバーがインストールされて正しく動作しなくなる恐れがあります。

USB ドライバーに関しては当社ホームページ、カスタマーサポートのドライバーダウンロードページ [http://www.yaesu.com/jp/amateur\\_index/driver/GetStart.html](http://www.yaesu.com/jp/amateur_index/driver/GetStart.html) をご覧ください。インストールマニュアルを最後までお読みいただいた上でドライバーのインストールを行なってください。

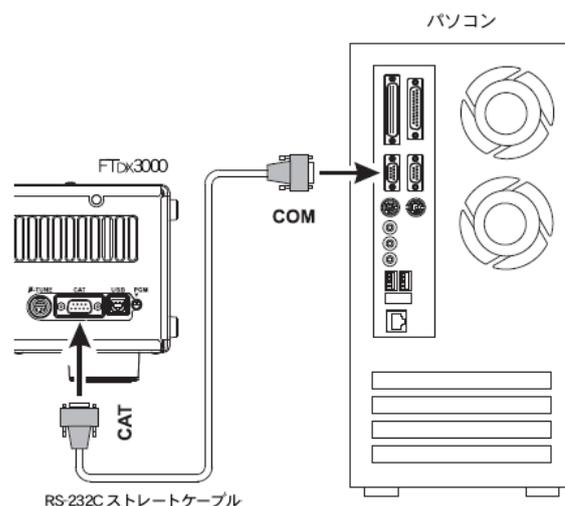
FT DX 3000 背面にある USB 端子とパソコンの USB 端子を、市販の USB ケーブルで接続することで、USB による通信を行うことができます。



### RS-232C(シリアル)ケーブルで接続する場合

下図を参考にして、FT DX 3000 の背面にある CAT 端子とパソコンの COM 端子を、市販の RS-232C ストレートケーブルで接続することで、RS-232C による通信を行うことができます。

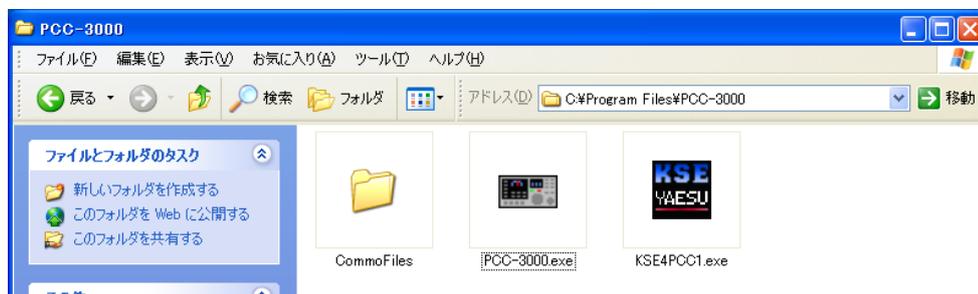
FT DX 3000 本体のメニューモード「037 CAT SELECT」を「RS232C」に設定してください。



## PCC-3000 ソフトウェアのインストール

PCC-3000 フォルダをハードディスクの C ドライブにコピーしてください。

PCC-3000 フォルダの中には CommoFiles フォルダ、PCC-3000.exe、KSE4PCC1.exe のファイルがあります。



## PCC-3000 ソフトウェアのアンインストール

PCC-3000 のフォルダごと、ゴミ箱に移動してください。

## パソコンの通信ポート COM 端子番号の設定

COM 端子番号の設定は、USB ケーブルまたは RS-232C ケーブルのどちらで接続した場合でも必要です。

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「COM Select」をマウスの左ボタンでクリックすると、「COM Select」のポップアップウィンドウが表示されます。
3. PCC-3000 コントローラ画面を一度閉じて、PCC-3000 コントローラ画面を再起動してください。

2. FT DX 3000 を接続した COM 端子をマウスかキーボードの [↑]、[↓] で選択し、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、COM 端子が設定されポップアップウィンドウが閉じられます。

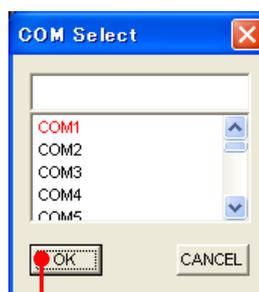
□ USB ケーブルで接続した場合には2つの仮想 COM ポートが現れますので、“Enhanced COM Port”と表示されている COM 番号を選択します。コントロールパネルからシステムを選択、デバイスマネージャを開いて、COM ポート番号を確認してください。（下記の表示例を参照してください。）

□ RS-232C ケーブルで接続した場合には接続した COM 端子の番号を選択します。

[CANCEL] ボタンをクリックすると COM 端子番号は変更されずに終了してポップアップウィンドウは消えます。

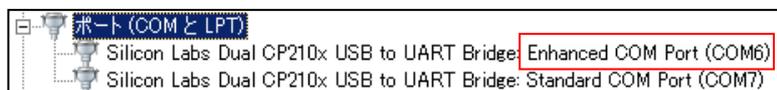


“COM SELECT”をクリックする



[OK]をクリックする

- Windows コントロールパネルのデバイスマネージャによる COM ポートの表示 (COM6 の例)



---

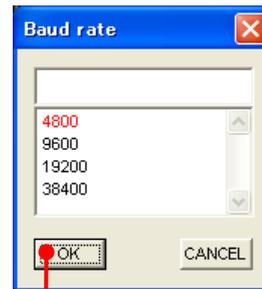
## 通信速度“Baud rate”の設定

---

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Baud rate」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Baud rate」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Baud rate を選択し[OK]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウィンドウが閉じられます。デフォルトは 4800bps になっていますが、それ以外にマウスかキーボードの[↑]、[↓]で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。  
PCC-3000 ではできるだけ速い通信速度に設定してお使いいただくことをお勧めします。速い通信速度で動作が不安定な場合には通信速度を下げることで改善する場合があります。  
PCC-3000 の通信速度を変更した場合には、FTDX 3000 本体側の通信速度をメニューモード「038 CAT RATE」で同じ通信速度に設定してください。  
[CANCEL]ボタンをクリックすると COM は変更されずに終了してポップアップウィンドウは消えます。
3. PCC-3000 コントローラ画面を一度閉じて、PCC-3000 コントローラ画面を再起動してください。



“Baud rate”をクリックする



[OK]をクリックする

## 画面の説明

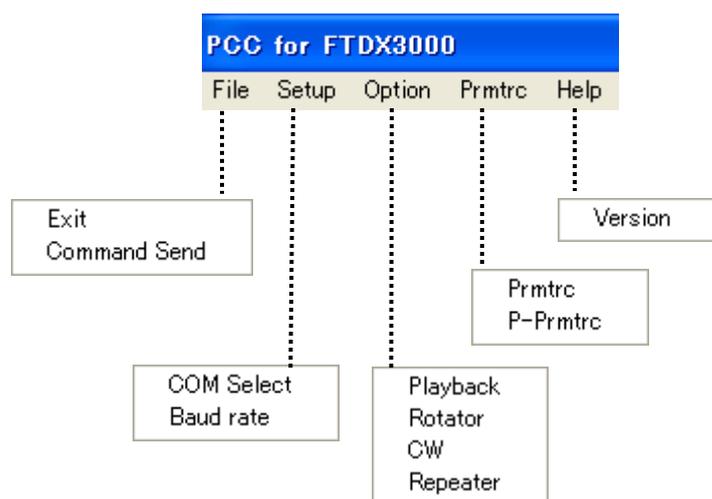
PCC-3000 のソフトウェアをインストールして、“PCC-3000.exe”をダブルクリックすると、下記の PCC-3000 コントローラ画面が開きます。

下図の操作を行いたい「ボタン」または「つまみ」の上にマウスカーソルを移動して、マウスの左ボタンをクリックすると、選択した「ボタン」または「つまみ」の操作説明のページへ移動します。

なお、この「PCC-3000 オペレーションマニュアル」はおもに PCC-3000 の操作方法を記載しておりますので、機能等の詳細は「FT DX 3000 シリーズのオペレーションマニュアル」を参照してください。



[SCOPE]ボタンと[AUTO]ボタン、[SELECT]、[▲/▼/◀/▶]ボタンは PCC-3000 では使用できません。  
また、スペクトラムスコープを表示させることはできません。



# 操作方法

## PCC-3000 コントローラ画面

### PCC-3000 コントローラ画面の表示

“PCC-3000.exe”アイコンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをダブルクリックします。“YAESU”ロゴが 3 秒間表示され、その後、PCC-3000 コントローラ画面が開きます。



“Exit”をクリックする

### PCC-3000 コントローラ画面の終了

PCC-3000 コントローラ画面を閉じるには、下記の 3 種類の方法で行うことができます。

- PCC-3000 コントローラ画面の右上の“閉じる”ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。
- パソコンの[ESC]キーを押します。

“閉じる”ボタンをクリックする

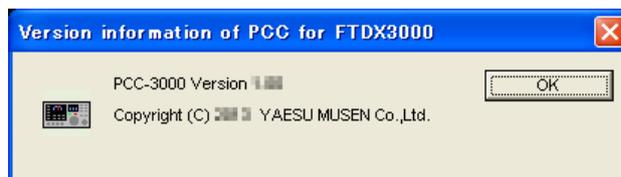


### バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for FT DX 3000」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウを閉じられます。



“Version”をクリックする



---

---

## PCC-3000 コントローラの回線接続

---

---

1. [COM]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ボタン内のインジケータが黄色に点灯し、PCC-3000 コントローラで FT DX 3000 を操作することができます。
2. もう一度[COM]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると黄色のインジケータは消灯し、PCC-3000 コントローラと FT DX 3000 の回線は切断し、操作することができなくなります。



[COM]ボタン

### アドバイス

[COM]ボタンの黄色のインジケータが消灯した状態でも、PCC-3000 コントローラの[電源]ボタン ([ON/OFF]ボタン) の操作だけ行うことができます。

---

---

## 電源の ON/OFF

---

---

[電源]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FT DX 3000 の電源を ON にすることができます。FT DX 3000 電源が ON の場合には電源ボタンのインジケータが橙色に点灯します。もう一度[電源]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FT DX 3000 の電源を OFF にすることができます。



[電源]ボタン

---

---

## 音量の調整

---

---

受信音量を調節するツマミです。

[AF]ツマミ(内軸)をマウスの左ボタンでクリックします(パネル部分の AF 文字が白色から橙色に変わります)。設定は 2 種類の方法があります(下記参照)。

- [AF]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると音量が下がっていきます。また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると音量が上がっていきます。
- [AF]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて受信音量を設定します。ホイールを上方向にまわすと[AF]ツマミの右回りになり音量が上がっていきます。また、下方向にまわすと[AF]ツマミの左回りになり音量が下がっていきます。



[AF]ツマミ (内軸)

---

---

## RF GAIN の設定

---

---

受信部高周波増幅段および中間周波増幅段の利得を調節するツマミです。

メニューモード「036 RF/SQL VR」で“RF” (RF ツマミ) に設定しているとき RF GAIN 調整ツマミとして動作します。( [RF/SQL] ツマミ (外軸) をマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の RF の文字が白色から橙色に変わります) )。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

- [RF/SQL] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると利得が下がっていきます。  
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると利得が上がっていきます。
- [RF/SQL] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと [RF/SQL] ツマミの右回りになり利得が上がっていきます。  
また、下方向にまわすと [RF/SQL] ツマミの左回りになり利得が下がっていきます。



[RF/SQL] ツマミ (外軸)

---

---

## スケルチの調整

---

---

スケルチを調節するツマミです。

RF/SQL [ツマミ] (外軸) はメニューモード「036 RF/SQL VR」で“SQL” (SQL ツマミ) に設定しているときスケルチ調整ツマミとして動作します。

[RF/SQL] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の SQL の文字が白色から橙色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

- [RF/SQL] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが下がっていきます。  
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが上がっていきます。
- [RF/SQL] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてレベルを設定します。ホイールを上方向にまわすと [RF/SQL] ツマミの右回りになりスケルチのレベルが上がっていきます。  
また、下方向にまわすと [RF/SQL] ツマミの左回りになりスケルチのレベルが下がっていきます。



[RF/SQL] ツマミ (外軸)

## Main VFO-A の周波数設定

### MAIN ダイアルツマミによる周波数設定

[MAIN ダイアル]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。

[MAIN ダイアル]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを下方方向にまわすと周波数が低くなり、また上方方向にまわすと周波数が高くなります。



[MAIN ダイアル]ツマミ

### 周波数ダイレクト操作による周波数設定

変更したい周波数表示部の数字を直接アップ／ダウンして周波数を変更することができます。

1. 変更したい周波数表示の数字にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします(数字が白色から橙色にかわります)。
2. マウスのホイールを回転し周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと数字が大きくなり、また下方向にまわすと数字が小さくなります。
3. マウスの左ボタンをクリックすると、数字が白色に戻り入力が終了になります。



周波数ダイレクト操作(例:100kHz 桁)

### 運用バンドの設定

[1.8]から[50]、[GEN]の各[BAND]キーの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると運用バンドを切り換えることができます。



[BAND]キー

### テンキー入力による周波数設定

1. [ENT]キーの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数ダイレクト入力モードになります。
2. VFO SET のポップアップウィンドウが表示され、パソコンのキーボードから直接周波数を入力することができます。入力が可能な範囲は30kHz～56MHzです。

30kHzを入力する場合は 30000

56MHzを入力する場合は 56000000

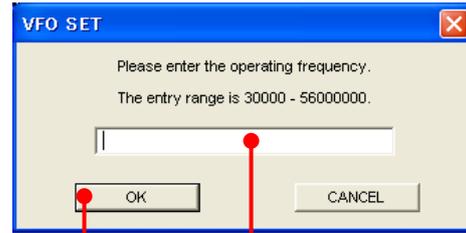
と入力します。



[ENT]キー

3. ポップアップウィンドウの[OK]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数変更され入力モードは終了してポップアップウィンドウは消えます。

[CANCEL]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると周波数は変更されずに入力モードは終了してポップアップウィンドウは消えます。



[OK]ボタン

周波数入力部

## 1MHz/100kHz アップダウンによる周波数設定

[MHz/ $\mu$ T]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“MHz/ $\mu$ T”のポップアップウィンドウが開きます。次に、MHz を選択 (ボタン内のインジケーターが橙色に点灯)し、次に[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、周波数を 1MHz ステップで可変することができます。メニューモード「158 1MHz/100kHz SELECT」で“100kHz”に設定すると 100kHz ステップで可変ができます。



[CLAR/VFO-B]ツマミ

[MHz/ $\mu$ T]ボタン

OFF  
MHz  
 $\mu$ TUNE ON/OFF

“MHz/ $\mu$ TUNE”ポップアップウィンドウ

### アドバイス

- 本機に RF  $\mu$ -Tuning Kit を接続しているときには[MHz/ $\mu$ T]ボタンは $\mu$ -TUNE 専用になりますので、“MHz”を選択しても動作しません。

## VFO-B の周波数設定

### CLAR/VFO-B ツマミによる周波数設定

- [CLAR/VFO-B]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてボタン内のインジケーターを消灯させると、[CLAR/VFO-B]ツマミは VFO-B の補助機能として動作します。[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。
- [CLAR/CLAR]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを下方方向にまわすと周波数が低くなり、また上方方向にまわすと周波数が高くなります。



[CLAR/VFO-B]ツマミ

## 周波数ダイレクト操作による周波数設定

VFO-B において、変更したい周波数の桁を直接アップまたはダウンして周波数を変更することができます。

1. VFO-B の変更したい周波数表示の桁にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします(数字が白色から橙色にかわります)。
2. マウスのホイールを回転し周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと数字が大きくなり、また下方向にまわすと数字が小さくなります。
3. マウスの左ボタンをクリックすると、数字が白色に戻り入力が終了になります。



周波数ダイレクト操作(例:100kHz 桁)

## 運用バンドの設定

VFO-B の[RX]インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリック(VFO-B の[RX]インジケータボタンが緑色に点灯)し、VFO-B に切り替え、[BAND]キーをマウスの左ボタンでクリックして運用したいバンドを選択します。



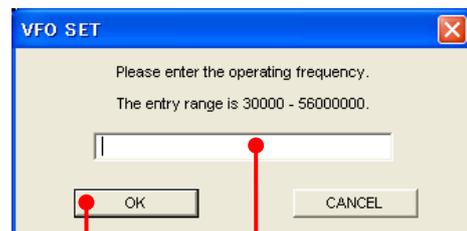
[BAND]キー

## テンキー入力による周波数設定

1. VFO-B の[RX]インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリック(VFO-B の[RX]インジケータボタンが緑色に点灯)し、[BAND]キーの[ENT]の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数ダイレクト入力モードになります。
2. VFO SET のポップアップウィンドウが表示され、パソコンのキーから直接周波数を入力することができます。入力範囲は 30kHz~56MHz で、  
30kHz を入力する場合は 30000  
56MHz を入力する場合は 56000000  
と入力します。
3. ポップアップウィンドウの[OK]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数変更され入力モードは終了してポップアップウィンドウは消えます。  
[CANCEL]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると周波数は変更されずに入力モードが終了してポップアップウィンドウは消えます。



[ENT]キー



[OK]ボタン

周波数入力部

## [MAIN ダイアル]ツマミ/[CLAR/VFO-B]ツマミのロック設定

- [MAIN ダイアル]ツマミ右下の[LOCK]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数ディスプレイの左側に“LOCK”が表示され、[MAIN ダイアル]ツマミをロックすることができます。



[MAIN ダイアル]ツマミの“LOCK”表示



[LOCK]ボタン

- [CLAR/VFO-B]ツマミの機能が VFO-B になっているとき (CLAR/VFO-B ボタン内のインジケータが橙色に点灯)、[TX CLAR/LOCK]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると VFO-B 周波数ディスプレイ右上に“LOCK”が表示され、[CLAR/VFO-B]ツマミをロックすることができます。



[CLAR/VFO-B]ツマミの“LOCK”表示



[LOCK]ボタン

## 運用モード選択

- VFO-A の運用モードを選択する場合は、VFO-A の [RX]インジケータボタンが緑色に点灯していることを確認します。[MODE]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“MODE”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したい電波形式を選択します。
- VFO-B の運用モードを選択する場合は、VFO-B の [RX]インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリック (VFO-B の[RX]インジケータボタンが緑色に点灯)して VFO-B に切り換えます。[MODE]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“MODE”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したい電波形式を選択します。

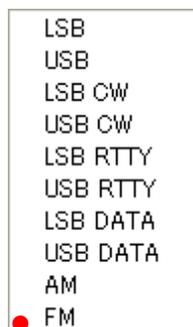


VFO-A の[RX]インジケータボタン

VFO-B の[RX]インジケータボタン



[MODE]ボタン



“MODE”ポップアップウィンドウ

---

---

## クラリファイアの設定

---

---

クラリファイア周波数を変更する時は必ず[MHz/ $\mu$ T]、[CLAR/VFO-B]、[MCH/GRP]のボタンが点灯していないことを確認してください。

### RX CLAR ボタン

[RX CLAR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、受信用クラリファイアが“ON”になり、[CLAR/VFO-B]ツマミによって受信周波数を一時的に変更することができます。

もう一度[RX CLAR]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信用クラリファイアは“OFF”になります。

### TX CLAR ボタン

[TX CLAR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、送信用クラリファイアが“ON”になり、[CLAR/VFO-B]ツマミによって送信周波数を一時的に変更することができます。

もう一度[TX CLAR]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、送信用クラリファイアは“OFF”になります。

### CLEAR ボタン

[CLEAR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、[CLAR/VFO-B]ツマミにより設定したクラリファイアのシフト周波数(オフセット量)が“ゼロ”にリセットされます。



### CLAR ツマミ

[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。

[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを下方向にまわすと周波数が低くなり、また上方向にまわすと周波数が高くなります。

---

---

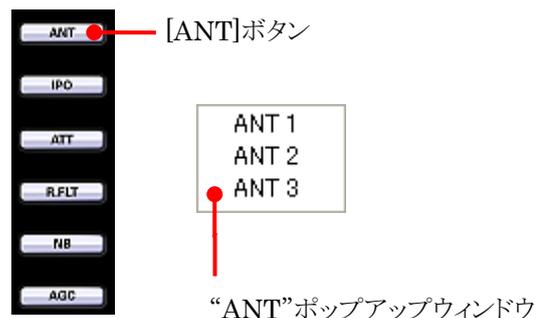
## アンテナ端子の切り換え

---

---

[ANT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして設定したいアンテナ端子を選択します。

ブロックダイアグラムディスプレイに“ANT”の選択状態が表示されます。



---

---

## IPO (Intercept Point Optimization)の設定

---

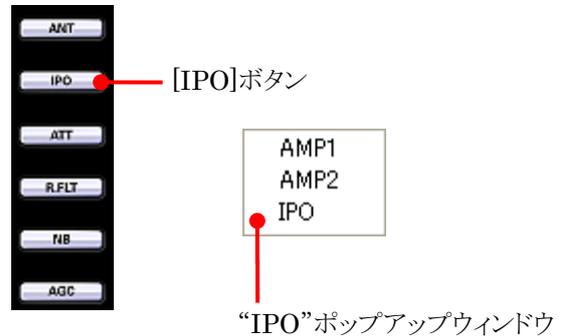
---

[IPO]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“IPO”のポップアップウィンドウが開きます。次にフロントエンドの設定を選択します。

AMP1: 約 10dB の利得 RF アンプ

AMP2: 約 20dB の高利得 RF アンプ

IPO: RF アンプ 1 段とアッテネータを組み合わせ、1st IF ミキサーへ適切なレベルの信号を入力します。  
ブロックダイアグラムディスプレイに“IPO”の選択状態が表示されます。



---

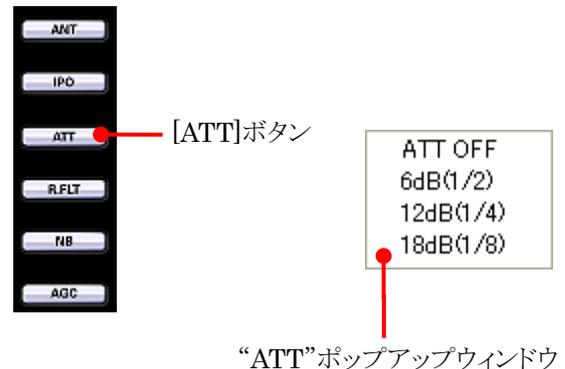
---

## ATT (Attenuator)の設定

---

---

[ATT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“ATT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいアッテネータを選択します。



---

---

## ルーフィングフィルターの設定

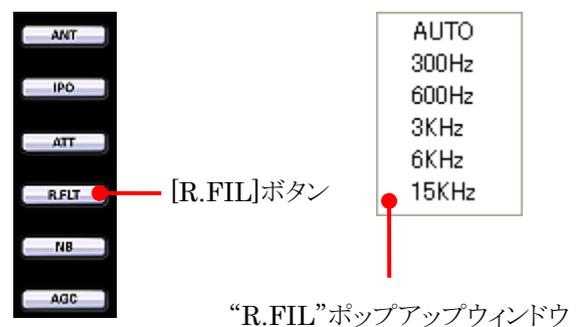
---

---

[R.FLT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“R.FLT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいルーフィングフィルターを選択します。

ブロックダイアグラムディスプレイに“R.FIT”の選択状態が表示されます。

- オプションの XF-127CN (300Hz CW ナローフィルター)を実装していないときは、“300Hz”を選択しても切り換えることはできません。



---

---

## ノイズブランカーの設定

---

---

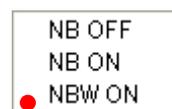
[NB]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“NB”のポップアップウィンドウが開き、次に、設定したいノイズブランカーの動作を選択します。

ブロックダイアグラムディスプレイに“NB”の選択状態が表示されます。

- NB OFF: NB の機能を OFF にします。  
NB ON: NB の機能を ON にします。  
“パルス性雑音”に効果があります。
- NB-W ON: NB-W の機能を ON にします。  
“幅の広い雑音”に効果があります。



[NB]ボタン



”NB”ポップアップウィンドウ

### アドバイス

- メニューモード「033 NB LEVEL」で、“パルス性雑音”に効果がある“NB”のノイズブランカーレベルを調整することができます。
- “NB-W”のノイズブランカーレベルは調整することはできません。

---

---

## AGC の設定

---

---

[AGC]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“AGC”のポップアップウィンドウが開き、AGC の時定数を設定することができます。

ブロックダイアグラムディスプレイの AGC の設定状態が表示されます。AUTO 以外を設定しているときは緑色の文字で表示されます。通常は AGC AUTO に設定しておきます。AGC AUTO に設定しているときは水色の文字で表示されます。



[AGC]ボタン



”AGC”ポップアップウィンドウ

## μ-TUNE の設定

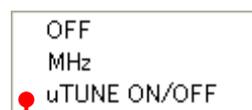
オプションの RF μ-Tuning Kit の接続が必要です。

1. [MHz/μ T]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとポップアップウィンドウが開きます。次に、“μ TUNE ON/OFF”を選択します。[MHz/μ T]ボタン内のインジケータが赤色に点灯します。
2. μ-TUNE の同調周波数を手動で調整したい場合は、[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすとμ-TUNE 同調周波数が低い方に変化します。また右回りにまわすとμ-TUNE の同調周波数が高い方に変化します。  
手動の調整を解除するには、[CLEAR]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信周波数付近に自動で同調しなおします。
3. μ-TUNE を解除するには、[MHz/μ-T]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとポップアップウィンドウが開き、次に“μ TUNE ON/OFF”をもう一度選択します。



[CLEAR]ボタン

[CLAR/VFO-B]ツマミ



[MHz/μTUNE]のポップアップウィンドウ

### アドバイス

- メニューモード「010 BAR DISPLAY SELECT」で“μ TUNE”を選択すると、バーグラフ表示部に μ TUNE のチューニング位置を表示します。
- 本機に RF μ-Tuning Kit を接続しているときには [MHz/μ T] ボタンは μ-TUNE の操作専用になりますので、ポップアップメニューの“MHz”を選択しても動作しません。

---

## IF SHIFT の設定

---

1. [SHIFT]ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の SHIFT 文字が白色から橙色に変わります)。DSP グラフィックディスプレイにシフト方向が表示されます。
2. 設定は 2 種類の方法があります。
  - [SHIFT]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると[SHIFT]ツマミの左回りになり、シフトが周波数の低い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りになり、シフトが周波数の高い方へ変化します。
  - [SHIFT]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて SHIFT を設定します。ホイールを下方方向にまわすと[SHIFT]ツマミの左回りになり、シフトが周波数の低い方へ変化します。また上方方向にまわすと[SHIFT]ツマミの右回りになり、シフトが周波数の高い方へ変化します。



[SHIFT]ツマミ (内軸)

---

## WIDTH の設定

---

1. [WIDTH] (外軸) ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の WIDTH 文字が白色から橙色に変わります)。DSP グラフィックディスプレイに IF フィルターの通過帯域幅が表示されます。
2. [WIDTH]ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (下記参照)。設定は 2 種類の方法があります。
  - [WIDTH]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると通過帯域幅が狭い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると通過帯域幅が広い方へ変化します。
  - [WIDTH]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて WIDTH を設定します。ホイールを下方方向にまわすと[WIDTH]ツマミの左回りになり帯域幅が狭い方へ変化します。また上方方向にまわすと[WIDTH]ツマミの右回りになり帯域幅が広い方へ変化します。



[WIDTH]ツマミ (外軸)

---

## ナロー(NAR)の設定

---

1. [NAR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、瞬時に通過帯域幅を狭くすることができます。通過帯域幅の詳細は FT DX 3000 シリーズのオペレーションマニュアルをご覧ください。ナロー状態で[WIDTH]ツマミを回すとさらに通過帯域幅を狭くすることができます。
2. もう一度[NAR]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ナローは解除されます。



---

## DNR(デジタルノイズリダクション)の設定

---

1. 機能表示ディスプレイに表示されている[DNR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてDNRを“ON”にします。
2. メニューモード「110 DNR LEVEL」でノイズの種類によってパラメータを 15 段階に可変することができます。
3. もう一度[DNR]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとDNRを“OFF”にすることができます。



---

## DNF (AUTO NOTCH)の設定

---

1. 機能表示ディスプレイに表示されている[DNF]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてDNFを“ON”にします。
2. もう一度[DNF]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとDNFを“OFF”にすることができます。



## NOTCH の設定

1. [NOTCH]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします ([NOTCH]ボタン内のインジケータが橙色に点灯します)。グラフィックディスプレイに NOTCH の減衰部分が表示されます。
2. [NOTCH] (内軸)ツマミをマウスの左ボタンでクリックします(パネル部分の NOTCH 文字が白色から橙色に変わります)。調整は 2 種類の方法があります。
  - [NOTCH]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると[NOTCH]ツマミの左回りになり中心周波数が低い方へ変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると[NOTCH]ツマミの右回りになり中心周波数が高い方へ変化します。
  - [NOTCH]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて NOTCH を設定します。ホイールを上方向にまわすと NOTCH の中心周波数が高い方へ変化します。また下方向にまわすと NOTCH の中心周波数が低い方へ変化します
3. NOTCH を解除したい場合は、[NOTCH]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。NOTCH 回路の動作が“OFF”になり、[NOTCH]ボタン内のインジケータが消灯します。



[NOTCH]ツマミ(内軸)  
[NOTCH]ボタン



[NOTCH] 動作表示

### アドバイス

メニューモード「111 IF NOTCH WIDTH」でノッチの減衰帯域特性(幅)を NARROW と WIDE から選択することができます。

## CONTOUR/APF の設定

### CONTOUR

1. [CONT/APF]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして[CONT/APF]ボタン内のインジケータが橙色に点灯して、DSPグラフィックディスプレイに CONTOUR が表示されている状態にします。

CW モードの場合はクリックするたびに、OFF(インジケータ消灯)→CONTOUR(インジケータが橙色に点灯)→APF(インジケータが橙色に点灯)→OFF(インジケータ消灯)→・・・と変化します。(APF についての説明は次項の APF を参照してください。)

2. [CONT/APF]ツマミ(外軸)をマウスの左ボタンでクリックして中心周波数を変更します(下記参照)。

設定は 2 種類の方法があります。

- [CONT/APF]ツマミ(外軸)の上にマウスカーソルを移動し、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると CONTOUR の中心周波数が高い方へ変化します。また、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると[CONT/APF]ツマミの左回りになり CONTOUR の中心周波数が低い方へ変化します。
  - [CONT/APF]ツマミ(外軸)の上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて CONTOUR の中心周波数を設定します。ホイールを下方向にまわすと左回りになり CONTOUR の中心周波数が低い方へ変化します。また上方向にまわすと [CONT/APF] ツマミの右回りになり CONTOUR の中心周波数が高い方へ変化します。
3. CONTOUR を解除したい場合は、[CONT/APF]ボタンをマウスの左ボタンでクリックして、[CONT/APF]ボタン内のインジケータを消灯させます。



[CONT/APF]ボタン

[CONT/APF]ツマミ(外軸)



[CONTOUR] 動作表示

#### アドバイス

- メニューモード「108 CONTOUR LEVEL」で CONTOUR のゲインを設定することができます。
- メニューモード「109 CONTOUR WIDTH」で CONTOUR の帯域幅(Q)を設定することができます。

## APF(Audio Peak Filter)

CW モード時のみ APF を選択することができます。

1. [CONT/APF]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして[CONT/APF]ボタン内のインジケータが橙色に点灯して、DSP グラフィックディスプレイに APF が表示されている状態にします。  
CW モードの場合はクリックするたびに、OFF(インジケータ消灯)→CONTOUR(インジケータが橙色に点灯)→APF(インジケータが橙色に点灯)→OFF(インジケータ消灯)→・・・と変化します。
2. [CONT/APF]ツマミ(外軸)をマウスの左ボタンでクリックして中心周波数を変更します(下記参照)。  
設定は 2 種類の方法があります。
  - [CONT/APF]ツマミ(外軸)の上にマウスカーソルを移動し、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると APF の中心周波数が高い方へ変化します。また、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると APF の中心周波数が低い方へ変化します。
  - [CONT/APF]ツマミ(外軸)の上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて APF の中心周波数を設定します。ホイールを下方方向にまわすと APF の中心周波数が低い方へ変化します。また上方方向にまわすと APF の中心周波数が高い方へ変化します。
3. APF を解除したい場合は、[CONT/APF]ボタンをマウスの左ボタンでクリックして、[CONT/APF]ボタン内のインジケータを消灯させます。



[CONT/APF]ボタン  
[CONT/APF]ツマミ(外軸)



[APF] 動作表示

### アドバイス

メニューモード「107 APF WIDTH」で、APF の帯域幅を3段階に設定することができます。

## MIC GAIN の設定

[MIC/SPEED]ツマミは LSB/USB/AM\*/FM\*/DATA モードの時は MIC GAIN を調整するツマミとして動作します。(\*AM/FM モードの MIC GAIN はメニューモード「052 AM MIC GAIN」/「084 FM MIC GAIN」が、“MCVR”に設定している場合に[SPEED/MIC]ツマミで調整することができます。)

[SPEED/MIC]ツマミ(内軸)をマウスの左ボタンでクリックします(下記参照)。

設定は2種類の方法があります。

- [SPEED/MIC]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると、マイクゲインが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、マイクゲインが上がります。
- [SPEED/MIC]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて MIC レベルを調整します。ホイールを上方向にまわすと [SPEED/MIC]ツマミの右回りになりマイクゲインが上がります。また下方向にまわすと [SPEED/MIC]ツマミの左回りになりマイクゲインが下がります。



[MIC/SPEED]ツマミ(内軸)

### アドバイス

CW モード時には[MIC/SPEED]ツマミは内蔵エレクトロニックキーヤーのキーイング速度を調整するツマミとして動作します。(詳しくは32 ページ、エレクトロニックキーヤー設定を参照してください。)

## MOX 操作

1. [MOX]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると[MOX]ボタン内のインジケータが赤色に点灯し送信状態になります。同時にメーター表示部分に TX インジケータが表示されます。
2. もう一度[MOX]ボタンを押すと受信状態に戻ります。



[MOX]ボタン

[TX]インジケータ



## VOX の設定

- 機能表示ディスプレイに表示されている[VOX]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして VOX を“ON”にします。  
音声入力によって自動的に送信状態になります。
- もう一度[VOX]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると VOX を“OFF”にすることができます。

### アドバイス

- メニューモード「181 VOX GAIN」で、VOX の動作感度を調整することができます。
- メニューモード「182 VOX DELAY」で、VOX の送信状態保持時間を調整することができます。



[VOX]ボタン

## スピーチプロセッサの設定

- 機能表示ディスプレイに表示されている[PROC]ボタンの上にマウスカーソルを移動して、マウスの左ボタンをクリックしてスピーチプロセッサを“ON”にします。
- [PROC/CAR]ツマミ(外軸)をマウスの左ボタンでクリックし、コンプレッションレベルを調節します(下記参照)。  
設定は2種類の方法があります。

- [PROC/CAR]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると、コンプレッションレベルが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、コンプレッションレベルが上がります。
- [PROC/CAR]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと[PROC/CAR]ツマミの右回りになりコンプレッションレベルが上がります。また下方向にまわすと[PROC/CAR]ツマミの左回りになりコンプレッションレベルが下がります。

- スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザーを搭載しておりますので、スピーチプロセッサ“ON”時に送信音質を独立して調整することができます。(詳しくは29ページの3ステージパラメトリックマイクイコライザー機能の調整を参照してください。)



[PROC]ボタン



[PROC/CAR]ツマミ(外軸)

### アドバイス

- スピーチプロセッサは、送信信号の平均電力を増加させることによってトクパワーを上げ、相手局側の了解度を上げるための機能です。

## SSB モード以外の送信出力調整

[PROC/CAR]ツマミは CW/AM/FM/RTTY/DATA モードの時にこれらのモードの送信出力を調整するツマミとして動作します。

[PROC/CAR]ツマミをマウスの左ボタンでクリックし、送信出力を調節します(下記参照)。

設定は2種類の方法があります。

- [PROC/CAR]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると、キャリアレベルが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると、キャリアレベルが上がります。
- [PROC/CAR]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと[PROC/CAR]ツマミの右回りになりキャリアレベルが上がります。また下方向にまわすと[PROC/CAR]ツマミの左回りになりキャリアレベルが下がります。



[PROC/CAR]ツマミ(外軸)

### アドバイス

- メニューモードの「177 TX MAX POWER」で設定した送信出力以下の範囲で調整することができます。
- SSB モードの場合には、[PROC/CAR]ツマミはスピーチプロセッサのコンプレッションレベルを調整することができます。

## オートアンテナチューナーの設定

[TUNE]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“TUNE”のポップアップウィンドウが開き、オートアンテナチューナーを設定することができます。

**TUNER OFF:** オートアンテナチューナーの機能がOFFになります。

**TUNER ON:** オートアンテナチューナーの機能がONになります。

**TUNING:** 自動的に送信状態になりチューニングがスタートします。チューニングが終了すると受信状態に戻ります。



[TUNE]ボタン

TUNER OFF  
TUNER ON  
TUNING

[MHz/uTUNE]のポップアップウィンドウ

## ボイスメモリー機能

ボイスメモリーを使用するにはオプションのボイスメモリーユニット DVS-6 の取り付けが必要です。

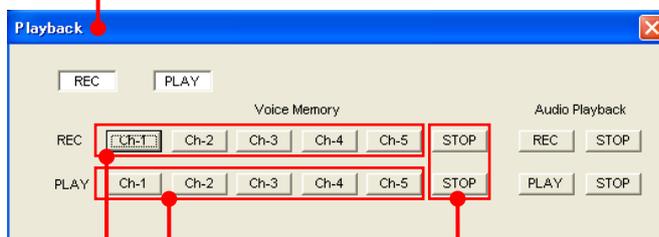
### 録音操作

1. FT DX 3000 にマイクロホンを接続しておきます。
2. 運用モードを LSB、USB、AM または FM に設定します。
3. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
4. Voice Memory の [REC] ボタン (Ch-1～Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音を開始 (REC インジケータが赤に点灯) しますので、FT DX 3000 に接続されているマイクロホンに向かって音声を録音します (PTT スイッチを押す必要ありません)。1 つのチャンネルあたり最大20秒間録音することができます。
5. Voice Memory の REC 側 [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。(または同じチャンネルの [REC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしても停止することができます。)



“Playback”をクリックする

“Playback”ポップアップウィンドウ



[STOP]ボタン

[PLAY]ボタン (Ch-1 ~ Ch-5)

[REC]ボタン (Ch-1 ~ Ch-5)

### 録音内容の確認(再生)操作

1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし“OFF”にします。

BK-IN が“ON”のまま、次の操作を行うと FT DX 3000 が自動的に送信状態になりますのでご注意ください。

2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。

### 送信操作

1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし“ON”にします。
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
3. Audio Playback の [PLAY] ボタン (Ch-1～Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音した内容が

3. Voice Playback の [PLAY] ボタン (Ch-1～Ch-5) をマウスの左ボタンでクリックすると再生を開始 (PLAY インジケータが緑に点灯) します。
4. 再生の途中で停止したい場合は、Voice Memory の PLAY 側 [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。(または同じチャンネルの [PLAY] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしても停止することができます。)

4. 送信 (PLAY インジケータが点灯) されます。
4. 送信の途中で終了したい場合は、PLAY の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
5. ポップアップウィンドウ (Playback) の終了ウィンドウの右上の“閉じる”ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。または、パソコンの [ESC] キーを押します。

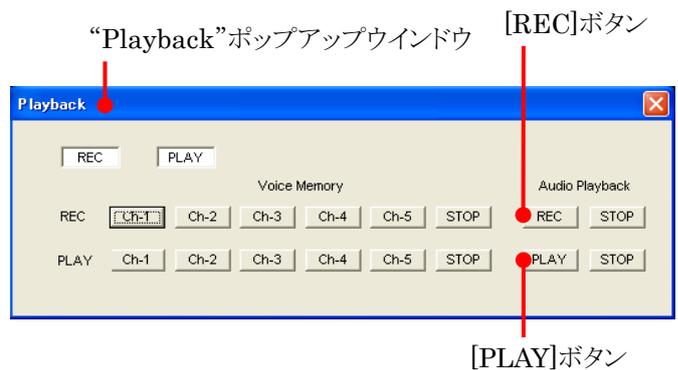
## プレイバック機能

### 録音操作

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Audio Playback の[REC]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると受信音の録音を開始 (REC インジケーターが点灯) します。録音中は受信音を常時録音しています。15 秒を超える録音内容を自動的に上書きしながら連続して録音します。STOP ボタンを押すまでつねに最新の 15 秒間を録音することができます。
3. REC 側の[STOP]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。



“Playback”をクリックする



[PLAY]ボタン

### 再生操作

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Audio Playback の[PLAY]ボタンをマウスの左ボタンでクリックするとエンドレスで再生を開始 (PLAY インジケーターが点灯) します。
3. 再生の途中で停止したい場合は、PLAY の [STOP]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。
4. ポップアップウィンドウ (Playback) の終了

ウィンドウの右上の“閉じる”ボタンにマウスカースルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。または、パソコンの[ESC]キーを押します。

#### アドバイス

- プレイバックの再生中は、受信音はミュートされます。
- FT DX 3000 の電源を切ると録音内容は消去されます。

## モニター機能の設定

1. [MONI] ボタンの上にマウスカースルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとボタン内のインジケーターが橙色に点灯し、モニター機能が“ON”になります。  
LSB/USB/CW/AM/FM/RTTY/DATA モードの時に自分の送信音をモニターすることができます。
2. メニューモード「035 MONITOR LEVEL」でモニター音量の調整を行うことができます。



[MONI]ボタン

## 3ステージパラメトリックマイクイコライザー機能の調整

メニューバーの「Prmtrc」を左クリックして、表示されるプルダウンメニューの「Prmtrc」または「P-Prmtrc」（スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザー）を選択すると、パラメトリックマイクイコライザーのゲインと周波数特性のグラフ画面がポップアップウインドウで表示され、グラフ画面を見ながら送信周波数特性の設定ができます。

プルダウンメニューの「Prmtrc」を選択するとパラメトリックマイクイコライザーにより好みに合わせて、スピーチプロセッサを使用していない場合の送信音質を低域・中域・高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

また、プルダウンメニューの「P-Prmtrc」を選択すると、スピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザーの送信音質を低域・中域・高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

1. FT DX 3000 にマイクロホンを接続します。
2. メニューモードの「177 TX MAX POWER」で送信出力を最小にしてください。  
パラメトリックマイクイコライザーの調整時は送信しながら設定をしますので、他の交信に混信をあたえないように最小限の出力に下げてください。
6. グラフ画面の下記の3つのステージの **FREQ** (中心周波数)、**LEVEL** (ゲイン)、**BWTH** (Q 設定) を設定します。
  - ・PRMTRC EQ1 または P-PRMTRC EQ1 (低域)
  - ・PRMTRC EQ2 または P-PRMTRC EQ2 (中域)
  - ・PRMTRC EQ3 または P-PRMTRC EQ3 (高域)

### アドバイス

- マイクイコライザーで好みの送信音質に調整するには時間がかかる場合がありますので、RF ダミーロードをご使用することをおすすめします。
- 送信音質の確認にはヘッドフォンを使用するとよくわかります。

3. [MONI] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてボタン内のインジケータが橙色に点灯させてモニター機能を“ON”にします。
4. マイクイコライザーの調整を行う場合には、機能表示ディスプレイに表示されている[MIC EQ] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてマイクイコライザーを“ON”にしてください。

スピーチプロセッサ専用マイクイコライザーの調整を行う場合には、マイクイコライザーを“ON”にして、さらに機能表示ディスプレイに表示されている[PROC] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてスピーチプロセッサを“ON”にしてください。

5. 上記、手順 3. で MIC EQ だけを“ON”にした場合はメニューバーの「Prmtrc」から、「Prmtrc」を選択します。また MIC EQ と PROC の両方を“ON”にした場合はパラメトリックマイクイコライザー専用のマイクイコライザー「P-Prmtrc」を選択します。選択後「Prmtrc」または「P-Prmtrc」のグラフ画面が現れます。



[MONI]ボタン



[MIC EQ]ボタン

[PROC]ボタン



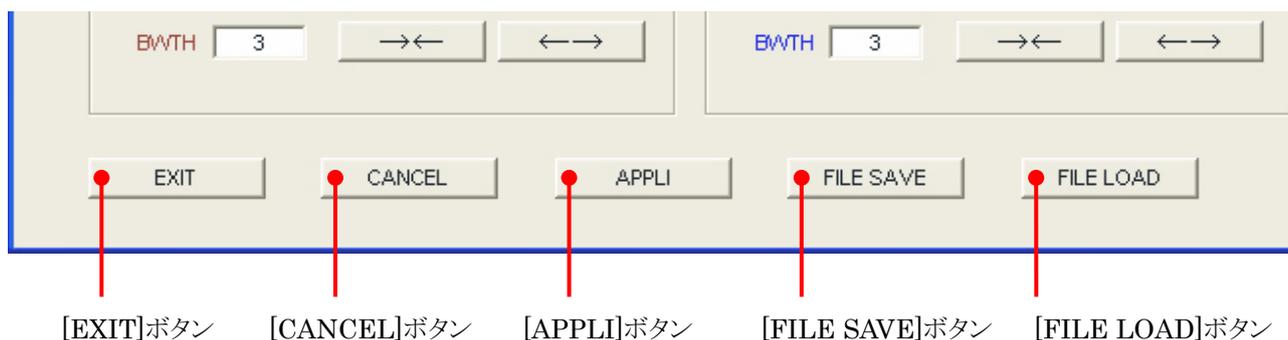
“Prmtrc”または“P-Prmtrc”をクリックする

### アドバイス

- 好みの音質になるまで、低域、中域、高域のそれぞれの音域で上記の調整を繰り返します。
  - モニター音の音量調整は、メニューモード「035 MONITOR LEVEL」で行います。
  - スピーチプロセッサ専用のマイクイコライザーを調節する場合は、[PROC]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてスピーチプロセッサを“ON”にしてから行ってください。
8. グラフ画面の[APPLI]ボタンをマウスの左ボタンでクリックして FT DX 3000 本体の設定状態として適用します。
9. グラフ画面の[EXIT]ボタンまたは、パソコンの[ESC]キーまたは、ポップアップウィンドウの“閉じる”ボタンを押すと現在の設定状態が FT DX 3000 本体の設定状態として適用されグラフ画面が閉じます。

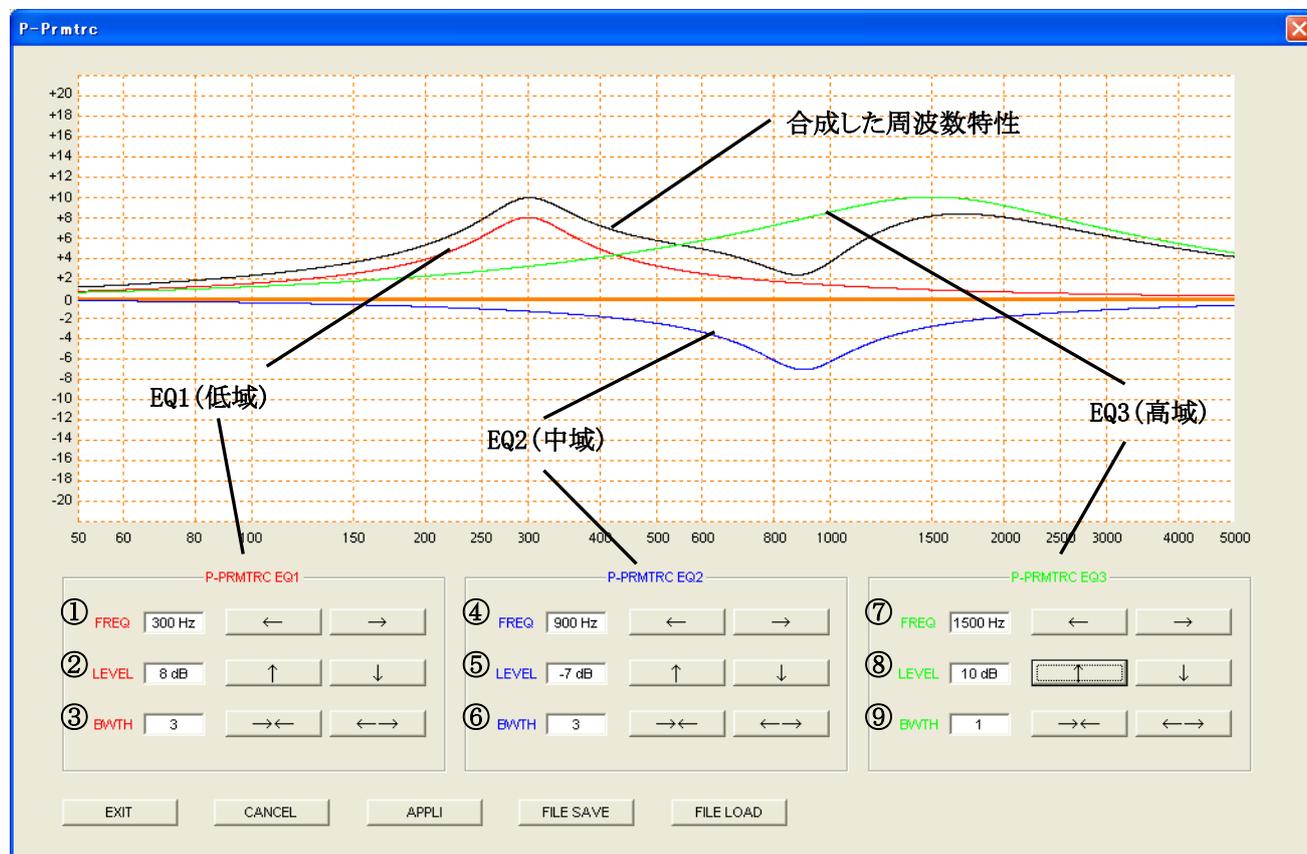
### アドバイス

- [CANCEL]ボタンを押すと現在の設定状態を保存せず、一つ前の設定状態に戻ります。
- [FILE SAVE] ボタンを押すと現在の設定状態をユーザー指定のフォルダーにファイル(拡張子“pef”)を保存することができます。自由なファイル名で複数のファイルを保存することができます。
- [FILE LOAD] ボタンを押すとユーザーが選択したファイル(拡張子 pef)の設定状態をグラフ画面に呼び出し、FT DX 3000 本体の設定状態として反映することができます。
- FT DX 3000 との通信を行っていないとき(COM ボタンのインジケータが消灯、COM オフの状態)でも PCC-3000 のパラメトリックマイクイコライザー機能の操作が行えますので、マイクイコライザーの設定値による送信周波数特性をグラフ上で確認することができます。



## Prmtrc/P-Prmtrc ポップアップウインドウ

低域・中域・高域に独立して中心周波数、ゲイン、Q 設定を入力することにより、3ステージパラメトリックマイクイコライザのグラフを表示することができます。グラフ内の赤線は低域、青線は中域、緑線は高域のそれぞれの周波数特性を示します。黒線は低域・中域・高域の合成した周波数特性を示します。



### PRMTRC/P-PRMTRC EQ1(低域)

- ① **FREQ**(中心周波数)  
FREQ の[←]/[→]ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると低音の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→] ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: OFF, 100~700 (Hz)  
(100Hz ステップ)
- ② **LEVEL**  
LEVEL の[↑]/[↓] ボタンを押すと低域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: -20~0~+10 (dB)
- ③ **BWTH**(Q 設定)  
BWTH の[→←]/[←→]ボタンを押すと低域の周波数において、変化幅(Q)を設定できます。[→←]/[←→]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: 1~10

### PRMTRC/P-PRMTRC EQ2(中域)

- ④ **FREQ**(中心周波数)  
FREQ の[←]/[→]ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると中域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: OFF, 700~1500 (Hz)  
(100Hz ステップ)
- ⑤ **LEVEL**  
LEVEL の[↑]/[↓]ボタンを押すと中域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: -20~0~+10 (dB)
- ⑥ **BWTH**(Q 設定)  
BWTH の[→←]/[←→]ボタンを押すと中域の周波数において、変化幅(Q)を設定できます。[→←]/[←→]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: 1~10

## PRMTRC/P-PRMTRC EQ3 (高域)

### ⑦ FREQ (中心周波数)

FREQ の[←]/[→]ボタンにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると高域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→]ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲: OFF, 1500~3200 (Hz)  
(100Hz ステップ)

### ⑧ LEVEL

LEVEL の[↑]/[↓]ボタンを押すと高域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓]ボタンの押し続けでも動作します。

選択範囲: -20~0~+10 (dB)

### ⑨ BWTH (Q 設定)

BWTH の[→←]/[←→]ボタンを押すと高域の周波数において、変化幅(Q)を設定できます。

[→←]/[←→]ボタンの押し続けでも動作します。  
選択範囲: 1~10

## エレクトロニックキーヤー設定

- 機能表示ディスプレイに表示されている[KEYER]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてエレクトロニックキーヤーを“ON”にします。
- [MIC/SPEED]ツマミ(内軸)をマウスの左ボタンでクリックし、エレクトロニックキーヤーのキーイング速度を調節します(下記参照)。設定は2種類の方法があります。
  - [MIC/SPEED]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにするとキーイング速度が遅くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにするとキーイング速度が速くなります。
  - [MIC/SPEED]ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと[MIC/SPEED]ツマミの右回りになりキーイング速度が速くなります。また下方向にまわすと[MIC/SPEED]ツマミの左回りになりキーイング速度が遅くなります。
- [BK-IN]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとボタン内のインジケータが橙色に点灯しブレークイン操作(キーイング操作により自動的に送信状態になる)になります。



[KEYER]ボタン



[MIC/SPEED]ツマミ (内軸)

[BK-IN]ボタン

## コンテストメモリーキーヤー設定

### TEXT メモリーの書き込み

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、「CW」のポップアップウインドウが表示されます。  
コンテストメモリーキーヤーの“TEXT メモリー” (TEXT Ch-1 ~ TEXT Ch-5) の書き込みを行うことができます。  
例えば TEXT Ch-1 に書き込む場合は、TEXT Ch-1 のメモリーボックスにパソコンのキーボードからメッセージを入力します(半角大文字、最大 50 文字)。
2. [Ch-1 WR] ボタンをマウスの左ボタンでクリックしてメッセージを保存します。

#### アドバイス

- “MESSAGE メモリー”は PCC-3000 から書き込みの操作をすることはできません。  
あらかじめ FT DX 3000 本体でメモリーを書き込みしておくことで、PCC-3000 の “Message Play” ボタンを押してメモリー内容の確認、CW 符号の送出手続きを行うことができます。

### TEXT メモリーの内容を確認

1. [BK-IN] ボタンをマウスの左ボタンでクリックし “OFF” にします。

BK-IN が “ON” のまま、次の操作を行うと FT DX 3000 が自動的に送信状態になりますのでご注意ください。

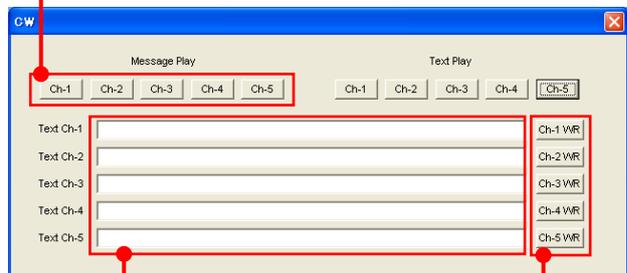
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、「CW」のポップアップウインドウが表示されます。
3. PCC-3000 の “Text Play” ボタンからメモリーした [Ch-1] ボタン～[Ch-5] ボタンを押すと、“TEXT メモリー”の内容を確認することができます。



“CW”をクリックする

#### “Message メモリー”の[Play]ボタン

(PCC-3000 では“Message メモリー”の書き込みはできません。内容の確認と CW 符号の送出手続きを行うことができます)



“Text メモリー”ボックス

“Text メモリー”の[WR]ボタン (Ch-1 ~ Ch-5)



[BK-IN]ボタン

#### “Text メモリー”の [Play] ボタン



## TEXT メモリーの送

1. [BK-IN]ボタンをマウスの左ボタンでクリックし“ON”にします。
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、“CW”のポップアップウィンドウが表示されます。
3. PCC-3000 の“Text Play”ボタンからメモリーした [Ch-1]ボタン～[Ch-5]ボタンを押すと、CW を送出することができます。

ポップアップウィンドウ(CW)の終了

終了は2種類の方法があります。

ウィンドウ右上の“閉じる”ボタンにマウスカursorを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。または、パソコンの[ESC]キーを押します。



[BK-IN]ボタン

“Text メモリー”の [Play] ボタン



## レピータ運用(FM モード)

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックして、次に「Repeater」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Repeater」のポップアップウィンドウが表示されます。

2. 例として 88.5Hz を設定する場合は、まずは CTCSS MODE を設定します。

[ENC]ボタン(CTCSS トーンエンコーダー)または [SQL]ボタン(トーンスケルチ)をマウスの左ボタンでクリックして選択します。

[OFF]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると CTCSS MODE は OFF になります

3. 次に、CTCSS TONE 周波数を選択します。

[Freq]ボタンをマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、CTCSS TONE 周波数が一覧で表示されます。現在の設定値は赤字で表示されます。

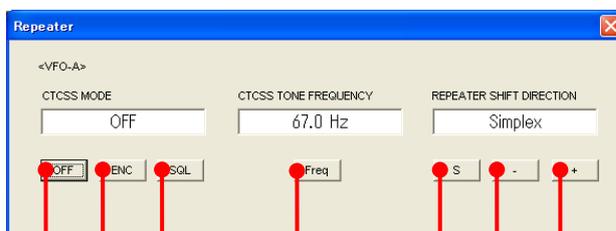
4. CTCSS TONE 周波数“88.5”をマウスの左ボタンでクリックし、[OK]ボタンをクリックするとポップアップウィンドウが閉じられ CTCSS TONE 周波数が設定されます。

5. 次に Repeater Shift Direction を選択します。Simplex の場合は[S]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

マイナスシフトの場合は[-]ボタンを、プラスシフトの場合は[+]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

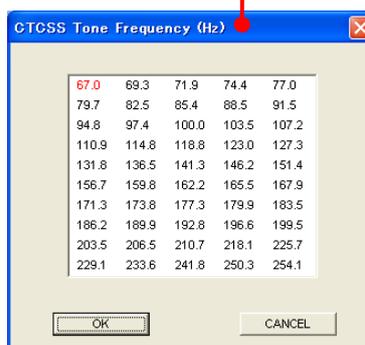


“Repeater”をクリックする



[OFF]ボタン [ENC]ボタン [SQL]ボタン [Freq]ボタン [S]ボタン [-]ボタン [+]ボタン

“CTCSS Tone Frequency”ポップアップウィンドウ



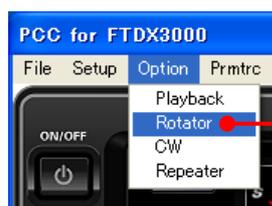
6. 以上で設定は終了です。ウインドウ右上の“閉じる”ボタンをクリックします。またはパソコンの[ESC]キーを押してポップアップウインドウを閉じます。

### アドバイス

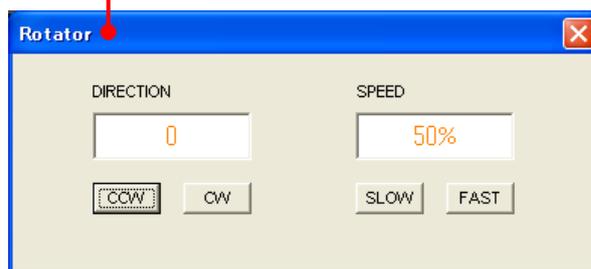
- Repeater 運用の動作は FM モードのみで有効になります。

## ローテーターのコントロール

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Rotator」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Rotator」のポップアップウインドウが表示されます。
2. アンテナを反時計方向(左)にまわしたいときは[CCW]ボタンを、また時計方向(右)にまわしたいときは[CW]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。DIRECTION のウインドウには角度(単位は度)が表示されます。
3. アンテナの回転速度を変更したい場合、低速にするには[SLOW]ボタンを、また高速にするには[FAST]ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。SPEED のウインドウには回転速度(単位はパーセント)が表示されます。
4. 終了する場合は、ウインドウ右上の“閉じる”ボタンをクリックします。またはパソコンの[ESC]キーを押してポップアップウインドウを閉じます。



“Rotator”ポップアップウインドウ



## QMB メモリー

- [STO] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると VFO-A の周波数と設定情報が QMB にメモリーされます。
- [RCL] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると QMB にメモリーされた VFO-A の周波数と設定情報を呼び出します。
- QMB メモリーは5チャンネルまで保存されます。[STO] ボタンを押して新しく保存すると、5チャンネル以上の QMB メモリーは古いメモリーから順番に消去されます。



## 各種ボタンとスイッチの操作

### 機能表示ディスプレイの[METER] ボタン

機能表示ディスプレイに表示されている[METER]ボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックするたびに S メーターの下段に表示するメーターを選択することができます。

PO(送信電力)、COMP(スピーチプロセッサのコンプレッションレベル)、ID(ファイナルトランジスターのドレイン電流)、SWR、ALC、VDDのいずれからから選択することができます。



[METER]ボタン

[ZIN/SPOT]ボタン

### 機能表示ディスプレイの[ZIN/SPOT] ボタン

#### ○ オートゼロイン機能

CW 信号を受信中に機能表示ディスプレイに表示されている[ZIN/SPOT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとオートゼロイン機能が動作して、ピッチ周波数と一致するように自動的に周波数が調整されます。

#### ○ スポット機能

機能表示ディスプレイに表示されている[ZIN/SPOT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたまま約 2 秒経つとサイドトーンが鳴ります。クリックを止めるとトーン信号は停止します。

### [SPLIT] ボタン

[SPLIT]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“SPLIT”のポップアップウィンドウが開き、スプリットを設定することができます。

SPLIT: 押すたびに SPLIT と SIMPLEX が切り替わります。

QUICK SPLIT: クイックスプリット機能が動作します。

(自動的に VFO-B の周波数が、VFO-A の周波数より 5kHz 高い周波数に設定され、SPLIT になります。SPLIT 中に操作した場合は VFO-B の周波数がさらに 5kHz 高い周波数に設定されます。)



[SPLIT]ボタン

[TXW]ボタン

### [TXW] ボタン

スプリット運用を行っているときに[TXW]ボタンの上にマウスのカーソルを移動し、クリックしている間だけ、送信周波数を一時的に受信することができます。

## [(VFO-A)RX] インジケータボタン

[(VFO-A)RX] インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして [(VFO-A)RX] インジケータボタンが緑色に点灯しているときには、VFO-A で設定した周波数・モード(電波型式)で受信することができます。もう一度押すと、[(VFO-A)RX] インジケータボタンが点滅して、受信音が一時的に“OFF”にする“MUTE”機能になります。もう一度押すと、[(VFO-A)RX] インジケータボタンは点灯に戻り、受信音を聴くことができます。

## [(VFO-A)TX] インジケータボタン

[(VFO-A)TX] インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてインジケータが赤色に点灯しているときには、VFO-A で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。もう一度押すと、[(VFO-B)TX] インジケータボタンが点灯して VFO-B で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。

## [(VFO-B)RX] インジケータボタン

[(VFO-B)RX] インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして [(VFO-B)RX] インジケータボタンが緑色に点灯しているときには、VFO-B で設定した周波数・モード(電波型式)で受信することができます。

## [(VFO-B)TX] インジケータボタン

[(VFO-B)TX] インジケータボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして [(VFO-B)TX] インジケータボタンが赤色に点灯しているときには、VFO-B で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。もう一度押すと、[(VFO-A)TX] ボタンが点灯して VFO-A で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。

## メインダイアルの[FAST] ボタン

[FAST] ボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックすると周波数表示部に FAST のアイコンが表示され、メインダイアルの周波数変化量が10倍になります。FAST に設定されると周波数表示部に FAST のアイコンが表示されます。

メニューモードの「151 CW DIAL STEP」～「155 SSB DIAL STEP」でモードごとに 1Hz または 5Hz に設定した場合には 100Hz になります。

[(VFO-A)/RX] インジケータボタン

[(VFO-A)/TX] インジケータボタン



[(VFO-B)/TX] インジケータボタン

[(VFO-B)/RX] インジケータボタン



もう一度押すと、[(VFO-B)RX] インジケータボタンが点滅すると、受信音が一時的に“OFF”にする“MUTE”機能になります。もう一度押すと、[(VFO-B)RX] ボタンは点灯に戻り、受信音を聴くことができます。

もう一度押すと、[(VFO-A)TX] ボタンが点灯して VFO-A で設定した周波数・モード(電波型式)で送信することができます。



メインダイアルの[FAST]ボタン

## [A→B]ボタン

[A→B]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータを VFO-B にコピーすることができます。

## [A↔B]ボタン

[A↔B]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータと VFO-B で設定した周波数などのデータを入れ替えることができます。

## [V/M] ボタン

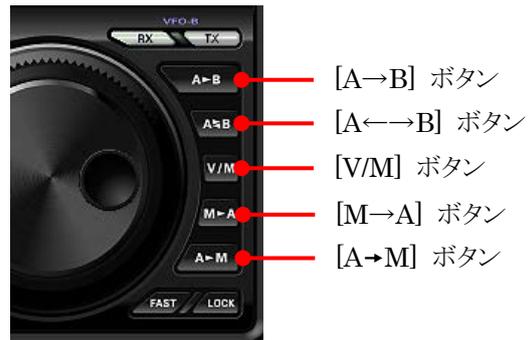
[V/M] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするたびに、VFO に設定してあるデータとメモリーチャンネルにメモリーされているデータを交互に呼び出すことができます。

## [M→A] ボタン

[M→A]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、メモリーチャンネルに書き込まれている周波数などのデータを VFO-A にコピーすることができます。

## [A→M] ボタン

[A→M]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、VFO-A で設定した周波数などのデータをメモリーチャンネルに書き込むことができます。

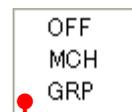


## [MCH/GRP] ボタン

1. [MCH/GRP]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとポップアップウインドウが表示されます。
2. “MCH”を選択するとボタン内のインジケータが橙色に点灯します。次に[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーチャンネル(MCH)を選択することができます。
3. メモリーチャンネル表示の上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーグループ (GRP)を選択することができます。
4. “GRP”を選択するとボタン内のインジケータが赤色に点灯します。次に[CLAR/VFO-B]ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーチャンネルグループ (GRP)を選択することができます。  
メニューモードの「041 MEM GROUP」が“ENABLE”の時だけ有効です。“DISABLE”の時はボタン内のインジケータが橙色に点灯してメモリーチャンネルを選択することができます。



[MCH/GRP]ボタン



“MCH/GRP”ポップアップウインドウ

### アドバイス

PCC-3000 はグループモード表示に対応していませんので、FT DX 3000 がグループモードに設定されている場合でも通常のメモリーチャンネル番号を表示します。

## CLAR/VFO-B ダイアルの[FAST] ボタン

[FAST] ボタンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックすると周波数表示部に FAST のアイコンが表示され、メインダイアルの周波数変化量が10倍になります。FAST に設定されると周波数表示部に FAST のアイコンが表示されます。

メニューモードの「151 CW DIAL STEP」～「155 SSB DIAL STEP」でモードごとに 1Hz または 5Hz に設定した場合には 100Hz になります。

[RX CLAR/FAST] ボタン



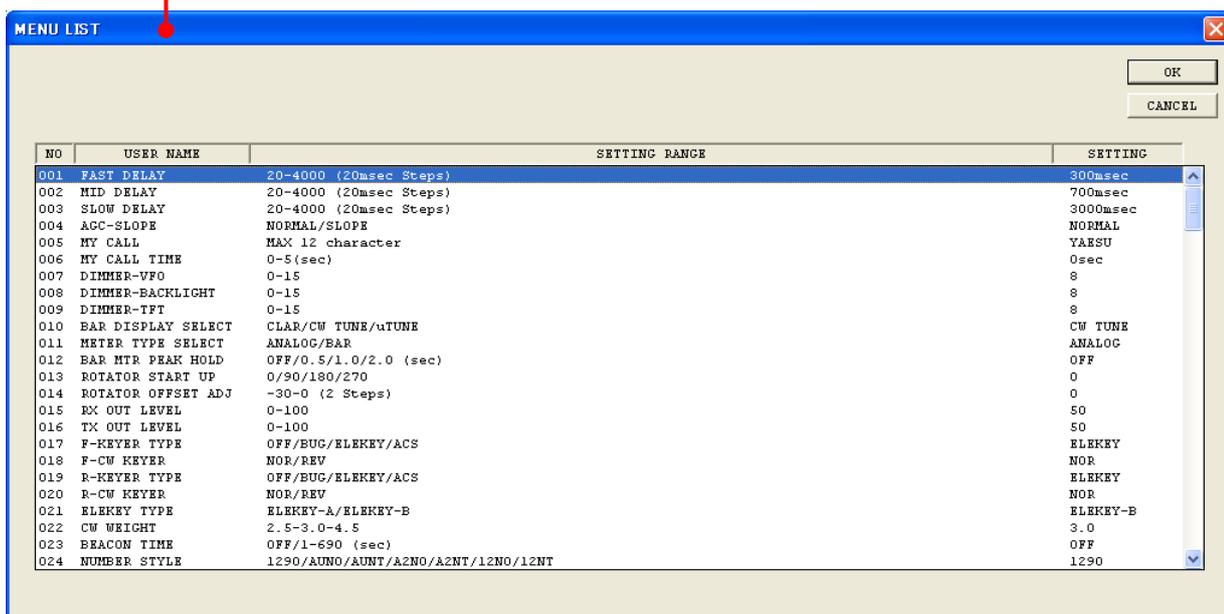
## メニューモードの設定

1. [MENU]ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして“MENU”画面を開きます。
2. マウスのホイールを回転しメニューを選択し、マウスの左ボタンをダブルクリックすると“MENU LIST SETTING”のポップアップウィンドウが開きます。
3. 変更したい設定値にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押して選択します。  
[OK]ボタンをクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。  
[CANCEL]ボタンをクリックすると、設定値を変更せずに“MENU LIST SETTING”画面を閉じます。  
赤色の文字で表示されている設定値は、現在の設定値です。
4. “MENU LIST”の[OK]ボタンをクリックすると内容を保存し、“MENU LIST”画面を閉じます。  
[CANCEL]ボタンをクリックすると、メニュー内容を変更せずに“MENU LIST”画面を閉じます。

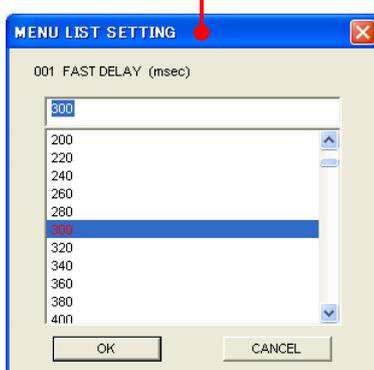
[MENU] ボタン



“MENU LIST”ポップアップウィンドウ



“MENU LIST”ポップアップウィンドウ



---

---

## CAT コマンドによる設定

---

---

CAT コマンドについては当社ホームページから“CAT オペレーションマニュアル”をダウンロードして参照してください。

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Command Send」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Command Send」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. ポップアップウィンドウのボックスにパソコンのキーボードで CAT コマンドを入力し(例えば A→B の場合は、AB; と入力します)、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするか、キーボードの Enter キーを押すとコマンドが設定されポップアップウィンドウを閉じられます。  
[CANCEL] ボタンをクリックするとコマンドは入力されずに終了して、ポップアップウィンドウは閉じられます。

---

---

## ファンクションキーの使い方

---

---

あらかじめキーボードショートカットエディタ (KSE4PCC1.exe)で各ファンクションキーに CAT Command を登録しておく、パソコンのファンクションキーを押すだけで CAT Command を送出することができます。

登録方法は、次ページの「キーボードショートカットエディタの使い方」を参照してください。

キーボードショートカットエディタ画面を閉じた状態でパソコンのファンクションキーを押しても CAT Command を送出することができます。

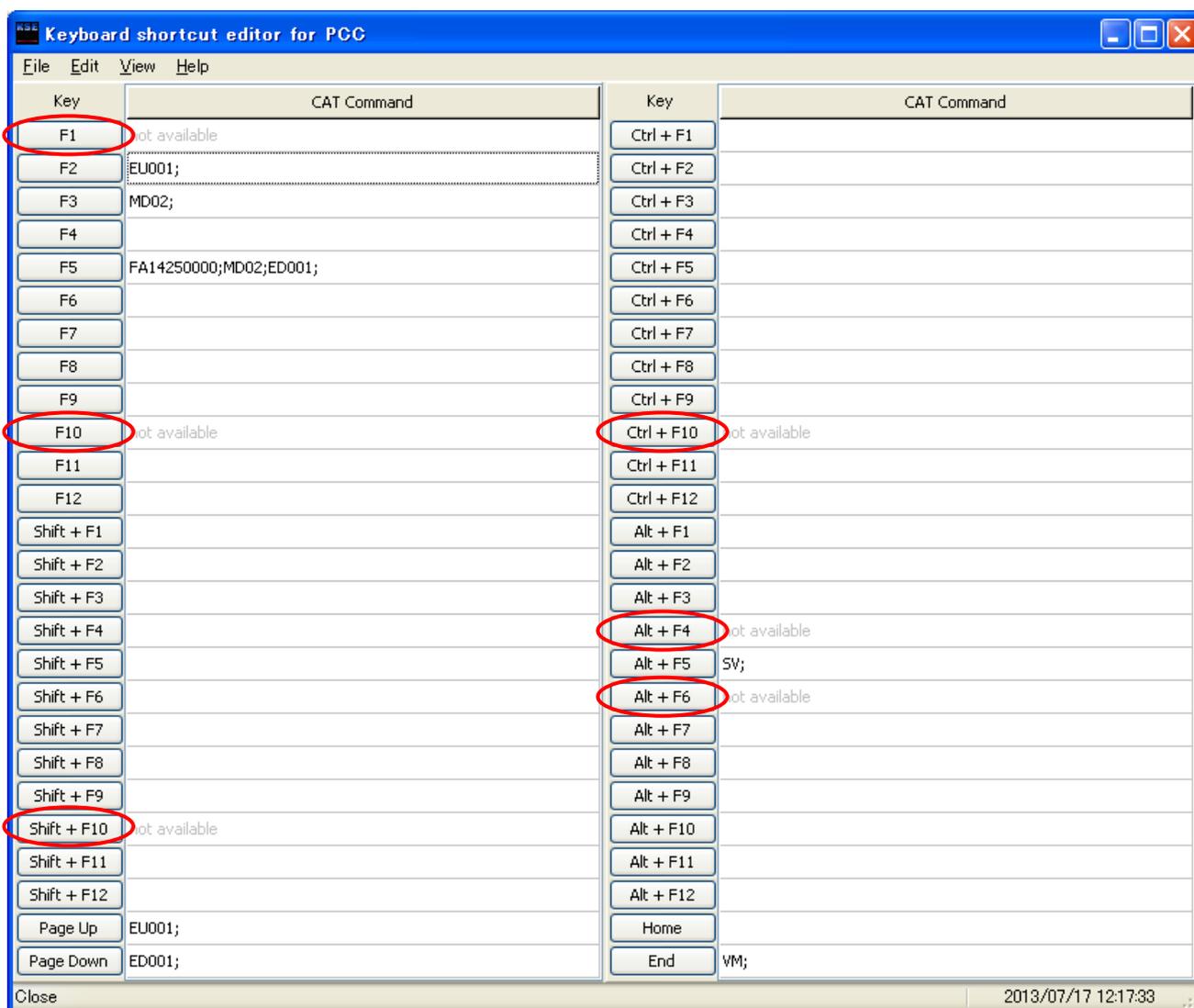
# キーボードショートカットエディタ

## キーボードショートカットエディタの使い方

あらかじめファンクションキーに CAT コマンドを登録しておきパソコンのキーボードのファンクションキーを押すことにより FT DX 3000 を操作することができます。

### キーボードショートカットエディタの起動

PCC-3000 に付属のキーボードショートカットエディタ“KSE4PCC1.exe”をダブルクリックすると、下記のキーボードショートカットエディタの画面が開きます。



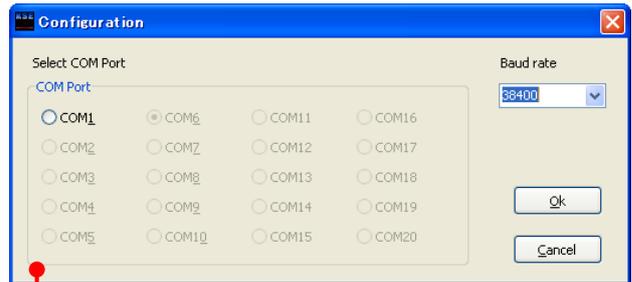
○印のファンクションキーは Windows があらかじめ使用しているため、キーボードショートカットエディタや PCC-3000 では使用することができません。これら以外のファンクションキーにコマンドを設定してください。

## “COM Port”、“Baud rate”の設定

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Configure」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Configuration」のポップアップウインドウが表示されます。
2. COM Port をマウスの左ボタンでクリックします。  
Baud rate (通信速度) の数字を選択し [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウインドウが閉じられます。  
デフォルトは 4800bps に設定してありますが、それ以外にマウスかキーボードの [↑]、[↓] で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。  
キーボードショートカットエディタではできるだけ速い通信速度に設定してお使いいただくことをお勧めします。速い通信速度で動作が不安定な場合には通信速度を下げることで改善する場合があります。  
Baud rate を変更した場合は、FT DX 3000 のメニューモード「038 CAT RATE」の設定も同じ Baud rate に変更してください。  
[CANCEL] ボタンをクリックすると COM 番号、Baud rate は変更されずに終了してポップアップウインドウは閉じられます。
3. キーボードショートカットエディタ画面を一度閉じて、画面を再起動してください。



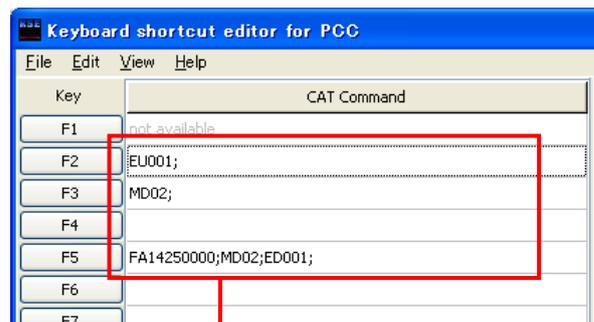
“Configure”をクリックする



“Configuration”ポップアップウインドウ

## ファンクションキーに CAT コマンドを設定

登録したいファンクションキーに CAT コマンドを入力します。コマンドを連結して入力することも可能です。



CAT コマンドを入力します

## CAT コマンドに Tag(タグ)を入力して表示

- Tag(タグ)を入力して Tag と CAT コマンドを同時に表示する

CAT コマンドに分かりやすくタグを付けることができます。タグと CAT コマンドを同時に表示します。

1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Both」をマウスの左ボタンでクリックして表示します。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. CAT コマンドの左側のセルをマウスの左ボタンでダブルクリックしてキーボードでタグを入力します。  
全角/半角 16 文字入力可能です。



Key	Tag	CAT Command
F1	help	not available
F2	encoder set up	EU001;
F3	mode select	MD02;
F4		
F5	VFO-A Freq set	FA14250000;

- Tag を入力して Tag のみ表示する

CAT コマンドに分かりやすくタグを付けることができます。タグのみ表示します。

1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Tag」をマウスの左ボタンでクリックして表示します。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. セルをマウスの左ボタンでダブルクリックしてキーボードでタグを入力します。  
全角/半角16文字入力可能です。

- CAT Command だけを表示する

メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「CAT Command」をマウスの左ボタンでクリックすると表示します。

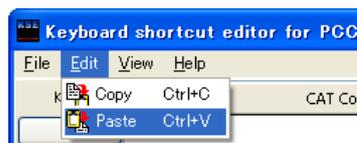
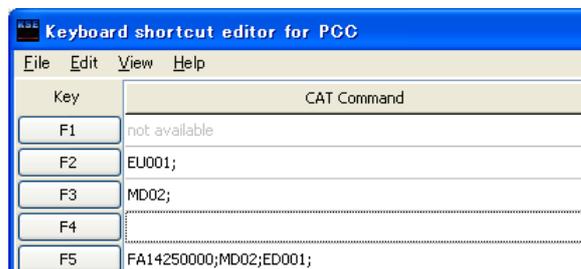
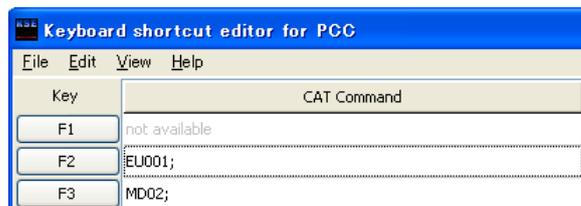
## ファンクションキーをクリックして CAT コマンドを送出

登録したファンクションキーをマウスの左ボタンでクリックするか、パソコンのファンクションキーを押すと、CAT コマンドを送出することができます。

画面左下に“Open”が表示されているときは送出自らますが、“Close”が表示されているときは送出自らできません。ケーブルの接続状態や COM Port、Baud rate の確認をしてください。

## コマンドをコピーして貼り付ける

1. コピーしたいコマンドをマウスの左ボタンでクリックし選択します。
2. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Copy」をマウスの左ボタンでクリックしてコピーします。
3. コピー先のファンクションキーのコマンド欄をマウスの左ボタンでクリックし選択します。
4. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Paste」をマウスの左ボタンでクリックして貼り付けます。



## ファンクションキーに設定した CAT コマンドを保存

メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Save」をマウスの左ボタンでクリックして保存します。



## 保存したデータを呼び出す

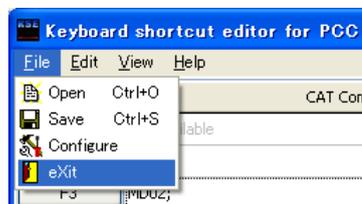
メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Open」をマウスの左ボタンでクリックすると以前保存した画面が表示されます。



## キーボードショートカットエディタの終了

キーボードショートカットエディタ画面を閉じるには、下記の2種類の方法で行うことができます。

- キーボードショートカットエディタ画面のウィンドウの右上の“閉じる”ボタンにマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをクリックします。
- または、メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。



## バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for KSE4PCC」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK]ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウが閉じます。





## 八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

©2013 八重洲無線株式会社

無断転載・複写を禁ず